【小学校発達】

**② 担当者の職名**

　　教諭　87名　会計年度職員　1名　非常勤教諭　１名

◎担当者について

⑥ 時間外延べコマ数 　　1校　３コマ（理由：保護者の都合）

⑤ １人当たりの最大指導人数

（途中退級・入級込み）（年度末見込みで）

（教育課程外も含む）（会員外指導者も含む）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 平均 | 最小値 | 最大値 |
| 東部 | 21.4名 | 最小15 | 最大28 |
| 中部 | 21.2名 | 最小15 | 最大28 |
| 西部 | 26名 | 最小13 | 最大50 |
| 県全体 | 21.6名 |  |  |

⑦ 設置校数（学級数で回答したと思われる学校もあるため不正確）

|  |  |
| --- | --- |
| 市町名 | 校数（サテライト・巡回含む） |
| 伊東・伊豆・伊豆の国・下田・森・長泉 | 1 |
| 菊川・御前崎・袋井・熱海・富士・牧之原 | 2 |
| 吉田・三島・焼津 | 3 |
| 掛川・沼津 | 4 |
| 裾野・島田 | 5 |
| 富士宮 | 6 |
| 静岡・浜松 | 7 |
| 藤枝 | 11 |
| 計 | 76校 |

◎通級児童について

**③ 待機人数（令和4年　4月時点）**

東部　10名（熱海・裾野）　中部　7名（静岡）西部　３名（浜松）　　計10名

**⑥ 往復１時間以上の人数**

東部　３名　中部　７名　西部　１０名　　計　１０名

**往復１時間以上の人数で送迎困難のため通級に結びつかなかった人数**

対象者0

不明1（在籍校での就学支援でどんな話になっているかは通級担当者に届かないため）

**◎巡回指導について**

③ 巡回指導の成果（回答数21校）

○保護者の送迎負担緩和（それにより入級できた児童もいた）　等　　　【13校】

○在籍校の担任やと特別支援教育コーディネーター、管理職との連携がスムーズにできた

課題や成果を共有し指導につなげやすかった　　【１３校】

○普段の学校生活の様子を観察しやすく、児童の実態により合わせた指導を行うことができた

【６校】

○その他

・他の児童（特別支援教育対象児）の把握がしやすい

・サテライト校の特別支援教育推進につながっている

・より多くの子に通級指導を提供できる

**④ 巡回指導の課題（回答数24校）**

○環境面の難しさ　【1４校】

　・教材の少なさ、教材移動の負担（その時の児童の実態にあった教材をすぐできない）

　・通常級の近くで児童が落ち着かない

　・サテライト教室が他の目的の部屋との兼用になっているため活用しにくい　等

○保護者との連携の難しさ【11校】

　・保護者の送迎がないため、対面で相談する時間が減少

○時数確保、移動時間【８校】

　・サテライト日は、目一杯授業が入っているため、教室の様子を見に行く時間がない

　・担任と情報共有する時間がない

○在籍校（サテライト校）の体制【４校】

　・担任との連携困難、通級授業中（7時間目）が周知されず締め出されてしまった

　・情報共有の必要性を在籍校に理解してもらえるようにしたい

◎言語通級と発達通級について

①言語と発達が同一校・同一市町に設置されていて良かったこと（回答校33校）

○情報交換・相談がしやすい【14校】

・一人の児童を様々な視点でみることができる

○ことばから発達への移行がスムーズにできる【９校】

○研修の深まり【７校】

・ことばなのか発達なのか悩む児童について研修することができた

・お互いの指導内容や指導法を知ることができた

○その他

・仕事が分担できる　　・兄弟で利用できる

・すみわけがきちんとされていることで適した指導ができる

② 言語と発達両方の指導経験者数

８９名中　11名　（約12％）

**③ 言語と発達両方をノンカテゴリーで指導歓迎可能人数**

　　指導してもよい　　８９名中　１６名（約18％）

　　　（言語通級経験者、または言語聴覚士の資格をもっていなければ、「してもよい」とは言えないと思う）

◎静言研について（回答校54校）

・対面式やオンラインを、組み合わせてもよいと思う。各教室の様子を見せてもらえたのもオンラインならではの良さではないかと思う。

・様々な研修を組み合わせると総合的に力を高められる。権威のある方の講演会は定例研で予算を組んでもらえばよいと思う。

・言語の研修は言語担当のみ、発達の研修は発達担当のみ、と分けていただけると助かる。

・Zoom等を利用したオンライン会合が便利。分科会もyoutubeを利用することですべての分科会の発表を観ることができてありがたかった。

・どれも希望しているが、集中力や習熟度が違うため、できれば対面式のものが良い。

・対面式の話合い型やワークショップでいろいろな先生方と話す機会があるとよい。

・実践形式もあるとよい。

・参観型は個人情報の観点や教室に入る人数など難しいこともある。録画やオンラインなどの活用など、様々な形があっていいのではないかと考える

⑤ 静言研以外の研修会

その他：特別支援学級研究協議会からの補助金

　1名公費、2名東部研のみ参加

③ 静言研への参加の扱い　（出張・年休等）（細かな規定が　ある場合は　内容も記述）

○基本的に全校が出張扱い　オンライン実施のため出張扱いなしが数校

○休日は出張外

　行政：通級指導教室担当者研修（県・市町）、初任担当者研修、静教研

　　　　特別支援教育コーディネーター研修会、通級2年目研修、4年目研修

　　　　各市町主催の研修会、特別支援学校自立活動の参観　　等

　個人：神奈川LD学会、発達障害者支援センターアスタ研修、

資格にかかる研修（SENS、公認心理師、学校心理士、臨床発達心理士　等）

個人的な勉強会（他県通級教室視察など）、おひさま勉強会

LD-SKAIP研修会、後藤隆章先生の事例検討会、はごろも助成の研修会　等

⑥ 市町内通級非会員の人数（小発達のみ）

　　東部３名　　中部０名　　西部８名

◎その他　御意見、困りごと等の自由記述

**◎就学支援について**

② 就学支援での問題点

　〇児童の実態に適した就学支援の難しさ　　【1３校】

　　・適切な支援が遅れる、支援学級につなげるための支援の場として利用されることがある

　　・支援学級と通級についての理解不足（学校、保護者、園）

　・校内支援で対応可能ではないかと思われる児童もいる

　・LDなのか境界域なのか判断が難しいケースがある

　・在籍校からの要望が強く公平な判断が難しい

　・小学校１年生の入級の扱い。通級人数の報告と各校の就学支援のタイミングが合わない。（次年度の通級を夏休みまでに決定する市町）

　〇入級に際して医療受診が必要となる市町のため保護者のハードルが高くなる　【３校】

　　・「巡回相談」で入級判定ができる市町、各校年４名までのため学校間で差がでる

　〇退級までの年数が決まっていること

　・特に学習障害の児童は継続指導が必要。3年間という期限は実態にあっていない。

（まとめ）

　○定数化について確かな情報を知りたい

　○人口が少ない地域での格差

　○教室運営について教材の予算が不十分

　○担当者の経験不足、指導技術向上の手立て、

教員としての経験の浅い担当者（10年未満程度）はなかなか難しい

自治体によっては、復帰訓練の場として通級担当がおかれていることも

　○静言研の仕事の明確化（仕事内容のデータベース化等）

　　県事務局の負担増

　　静言研を静教研等に組み込むことはできないのか

以下　原文

【定数化について】

・令和８年度からの１３名定数化とは具体的にどのようなものなのか。ニーズが少しでもあれば、各市町に通級指導教室が開設できるのだろうか。それとも、この考え方は的外れなのか。

・賀茂地区の学校の中心部に当たるのが下田とはいっても、片道１時間弱かかる場所は遠方にあたる。ニーズのある子どもはいるのだが、最初から通級指導に関して話題に上がってこない地区は多い。また、市町をまたぐとシステム上困難な面もある。市町によって、特別支援教育の認識の遅れもある。県教育委員会主導のもと、各市町への通級指導教室認知やインクルーシブ教育の研修会実施をもとめたい。

・自校に通級指導教室があることで、学校、保護者、本人の困り感が軽減するのは明白である。心身の安定のために、居場所づくりとしての通級指導教室を推進したい。

・通級指導教室担当者の定数化についての件の動向を知りたい。

　【教室運営について】

・教室経営。教材の予算が不十分。

・送迎の負担を考えると、北部校にもサテライトなどで、子どもが事項で通級を受けられるようにしてあげたい。

・３年の上限になってしまった子の保護者から、中学に通級がないことへの不安をよく聞く。高校進学への合理的配慮を希望していても、中学に通級がない状況なので、どうしていけばよいか、困っている。

・担当人数が多く、十分な指導回数を確保することができない。結果、退級者も増えず悪循環。

【通級担当者について】

・再任用2年目、あと3年でどのようにバトンタッチしていくか。

・静岡市では１０年３校研修で通級にも配属されるが２校目で通級に配属になる場合、複数の学校での経験がなかったり、関わったことのない学年もあったりするため、もう少し通常の学級、学校の経験を積んでからの異動が望ましい。

・通級初担当教員への指導が各教室に任せる形で、他市のようなバックアップが少ない。

・継続的に通級担当をする方が減ってしまい、市内のどの教室も経営全般に問題を抱えている。

・通級指導教室の存在意義が薄れてきている。復職復帰訓練の場になってしまっている。

　【その他】

・普段から他の通級担当者に悩みを相談したいが、なかなかできない。

・自立活動の指導の組み立てや見立ての研修が少なくて困っている。

・他の教室の指導を見学する機会がほしい。

・LDの児童が中学校での合理的配慮を求めるにあたり、受け入れる中学校の体制が整っていないことが多い。LDへの理解が深まり、必要な支援を受けられるようにしてほしい。

【静言研について】

・研修会の引継等、仕事の引継に曖昧な部分がある。期限や手順等が明文化されておらず、経験者の脳内にあるというケースが多いように思う。会員なら誰でも見られる状態で仕事内容が明確になっているシステムを構築することが、「持続可能な静言研」につながると考える。

対応策：クラウド上のドライブや静言研ホームページを利用して、担当の仕事内容をデータベース化しておく。文章にできないような曖昧な内容では、引継に苦労してしまう。

・地域や学校によっては「静言研は私的な団体」と扱われ、出張旅費も工面されにくいと聞いた。今後は定数化に伴い指導者数が増え、より規模の大きい団体になるので、静教研に組み込んでもらうとか公認の団体扱いしてもらうとか、公式化するための具体策と行動が必要だと思う。

・今回からグーグルフォームで回答できたので楽にできました。ありがたいです。

・定例研は、近年行っているリモート形式を継続してほしい。

・教室数の増加、定数化へ変革期。県事務局の負担は大きいと思います。ありがとうございます。

・定数化に向けて、地区によって、担当者の指導の質に差が出ないようにすることが大切だと考える。そのために、県と静言研が協力して、研修等が推進されると、よい指導につながるのではないかと思う。

・静言研での研修の機会は大変貴重でありがたいが、本来の業務（通級の授業・準備・保護者や担任との連携など）を圧迫してしまったり、児童によって指導回数に差が出たりしてしまっている。